



# 京都市 農林業だより



時を超え美しく  
ひと輝く歴史都市・京都

発行 京都市産業観光局  
農林振興室農業計画課

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町  
488 番地 電話(075)222-3351

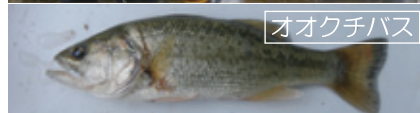
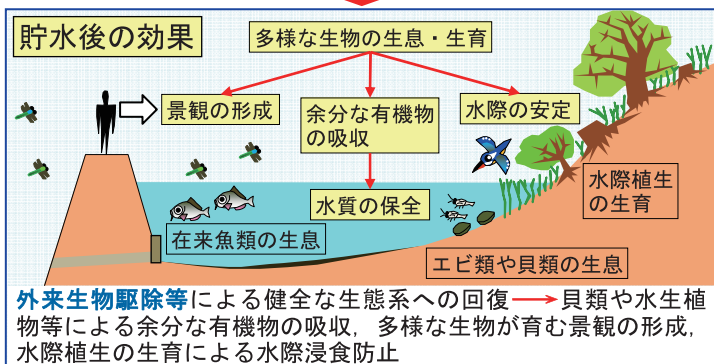
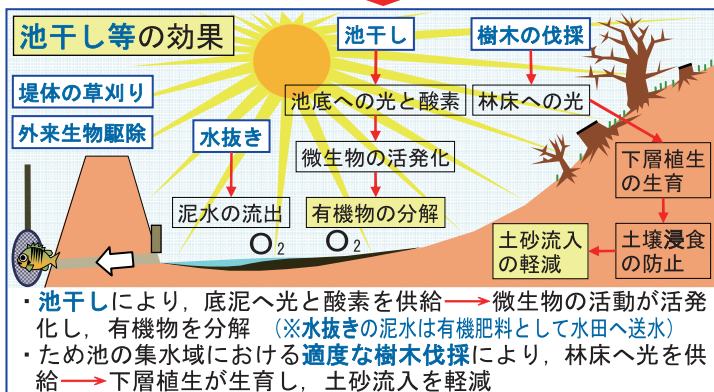
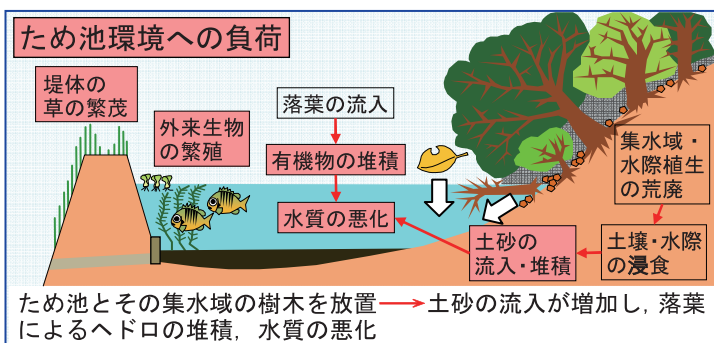
[http://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/soshiki/7-4-0-0-0\\_1.html](http://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/soshiki/7-4-0-0-0_1.html)

## ため池環境の再生に向けて

去る10月19日(日)、ため池環境の再生に向け、京都市西京区「米谷池」において、京都市と大原野「水土里リフレッシュ」との共汗により、ため池「水抜き」生き物調査を実施しました。ため池の**水抜き**は、河川に起こる洪水という自然現象をモデルにして、池の底に溜まったヘドロを洗い流すための先人の知恵であり、ため池を何百年も維持してきた伝統的な農業技術です。下図に示すように、**水抜き、池干し、集水域の適度な樹木伐採、外来生物の駆除**を適切に実施し、微生物など多様な生物の力(自然の力)を発揮させることにより、ため池環境への負荷を軽減することができます。

今回の調査では、外来魚類オクチバスの繁殖が確認されました。在来種は、トンボの幼虫が1種類のみ、魚類はコイとフナ、2種類のみで、稚魚は確認されず、繁殖していない様子でした。生物の種類が単調で、池の底には有機物を含む多くの泥の堆積が見られ、自然の力が健全に働いていないことがわかりました。

京都市内には139箇所の農業用ため池があり、機能を維持するために、水抜き等の活動を再認識し、その実施が求められます。



“やりがいを持って、楽しく農業をしたい!”

5年前、勤めていた農協を退職し、専業農家に。「農業が好きだったし、以前から農業をやってみたいと思っていた。」と渡邊さん。

地産地消を大切にしたいと、販売をメインにされています。お父さんから経営を受け継がれましたが、販売りの客先は自ら切り開かれました。

「農協時代の営業経験が役に立つたかな。同じ所を回るだけでは頭打ちやしね。」お客さんとのコミュニケーションを大切にし、品数を増やすために新しい作物にもチャレンジされています。

また最近では、地域の若手農業者でグループを結成。「面白味のある農業を志し、みんなで見えを出し合い、興味のあることはやってみようと集まりました。みんなで



儲けて、楽しみに繋がっている。」と様々な経営形態の人が集まり、繋がりを

持つことの重要性を認識されています。

さらには、外に向かって発信もしていきたいと、今年は初めて京の農林秋まつりにグループで出店されました。「他の地域の人とも交流をし、良いものはどんどん吸収していきたい。」

販売りに手を取られるなど、段取りよくいかないことも多いとのことですが、今後は「ハウスも順次増やし、栽培面積も毎年増やしていきたい。」と意欲満々です。

自分の好きな農業を子供たちの代でも楽しくできるようにと熱い想いでチャレンジを続ける渡邊さん。今後、ますます地域農業の担い手として活躍されることを期待しています。

ワンストップ窓口 農業経営相談窓口

農業指導所・京北農林事務所に、農業経営の相談窓口を設置しています。お気軽に御相談ください。

「森林と人との繋がりを復活させる」  
京都伝統文化の森推進協議会



京都東山の森林を守り、自然と共生する日本の伝統文化を復活・発信するために設立された京都伝統文化の森推進協議会は、8月11日(月)に総会及び支援協定締結式を行いました。

支援協定締結式では、本協議会の趣旨に賛同し、資金や労力の提供の申し出をいただいた青蓮院、清水寺、高台寺、祇園商店街振興組合の4団体の皆様と、協議会(会長 宗教学者 山折哲雄氏)との間で、支援協定書(の調印を執り行いました。

さらに締結式では、ボランティア等として活動に協力していただける、粟

田・弥栄・清水・修道の地元4自治連合会、清水寺門前会、東山保勝会など10団体の皆様に活動協力団体登録証を交付しました。

また、平成20年10月11日・12日には、本協議会の活動を広く一般の方々に知っていただくため、大阪市内において開催された、「水都おおさか森林の市2008」に出展しました。

今回の出展では、本協議会の趣旨や活動、支援協力していただいているサポーターや活動協力団体の情報を発信するため、パネル展示やクイズを行い、協議会のブースには、2日間約400名の方に来ていただきました。

本協議会では、今後も活動協力団体やサポーターの方々と一緒に、森林と人とのつながりを復活させる取組を通して、

森林や環境に関心をもち、活動を持っていただけるよう、活動をより一層充実させてまいります。





## 肥料価格高騰に対応した技術対策

肥料販売価格が上昇し、農家経営に影響を及ぼしています。そこで環境にやさしく、肥料コストを軽減する技術対策を考えてみましょう。

家畜ふん堆肥は、価格上昇が特に著しいりん酸、加里を多く含んでいます。家畜ふん堆肥を活用することで、化学肥料によるりん酸、加里の施用を減らすことができます。(表1・2)



表1 堆肥施用基準 (牛ふん堆肥の場合)

|         | 施用量 (t/10a) |
|---------|-------------|
| 水稻      | 1～3         |
| 果菜類・葉菜類 | 2～5         |
| いも・根菜類  | 1～2         |
| 果樹      | 2～4         |

表2 堆肥1t当たりの有効な成分量 (kg)

|             | 窒素  |                  | りん酸  | 加里   |
|-------------|-----|------------------|------|------|
|             | 単年  | 連用 <sup>1)</sup> |      |      |
| 牛ふん堆肥       | 3.9 | 7.8              | 12.7 | 14.3 |
| 豚ふん堆肥       | 3.2 | 6.4              | 49.8 | 14.5 |
| 牛ふん豚ふん等混合堆肥 | 2.4 | 4.7              | 14.4 | 8.9  |
| 鶏ふん堆肥       | 7.9 | 15.8             | 50.1 | 18.0 |

注) 府内堆肥センター産堆肥の平均値

1) 連用とは、牛ふん堆肥では5年、豚ふん堆肥では3年、鶏ふん堆肥では2年連続施用後の窒素量を示す。

※ 表1,2出典：専門技術情報(第5号)「肥料価格高騰に対応した技術対策」(京都府)

### 一面満開のコスモス畑



大きいフロク  
コリーが採れ  
たよ!

当日は、市内各地の新鮮で安心な野菜や地元特産物が販売され、約一万七千三百人の市民で賑わいました。また、もちつきや竹細工、会場隣の農地ではブロッコリーやだいこんなどの収穫やコスモスの摘み取り体験を行い、訪れた市民に京都市の農林業を身近に感じてもらうことができました。

去る11月1日、緑豊かな自然に囲まれた西京区大原野の光華女子学園グラウンドに、市内の農林業関係者が集結し、くやっぱり安心地元産に触れて実感!をテーマに「京の農林秋まつり」を開催しました。



くやっぱり安心地元産 触れて実感!  
平成20年度 京の農林秋まつり開催



#### 【野鳥による伝播防止】

防鳥ネットの設置

#### 【鳥の飲料水による伝播防止】

水道水又は消毒済の水の使用

#### 【人・車両による伝播防止】

飼育場所には「踏み込み消毒槽」の設置、手指の消毒

#### 【野生動物による伝播防止】

イタチ、ネズミ、ゴキブリ、ハエ等の侵入防止

対策を徹底しましょう!!

鳥インフルエンザの侵入を防止しましょう!!

#### とれたて野菜の販売



もちつき楽しかったよ!

飼育鶏に異変を感じたら  
農業振興整備課 222-3352 に一報を!

暮らしにもっと地域材！

## 地域の山の木 使いみち提案コンクール

京都市京北林業振興展の木材普及イベント『暮らしにもっと地域材！ 地域の山の木 使いみち提案コンクール』の優秀作品表彰式及び発表会が、10月17日

(金)に京都市京北林業振興実行委員会の主催で行われました。会場となった京都府立ゼミナールハウス(右京区京北下中町)は、約150人の来場者で賑わいました。

本コンクールは、高校生を対象に、京北地域産木材の有効な利用方法についてのアイデアを作文形式で募集した初の取組で、京都府立北桑田高校から約90通の応募がありました。

その中から、審査委員会(京都大学フィールド科学教育研究センター助教坂野上なお委員長)による厳



正な審査が行われ、京都市長賞をはじめ7点の受賞作品が決定されました。

当日は、それぞれの提案の内容が、各受賞者によってプレゼンテーション形式で分かりやすく紹介され、参加者は高校生の若く柔軟な発想に耳を傾けていました。

京都市長賞を受賞された同校 森林リサーチ科3年 西田一紀さんは、

木製ガードレールや学校の校舎など公共の施設に雪害木や間伐材を用いることを提案されました。

この他、京都大学の学生有志による木材流通をテーマとした演劇なども行われ、盛況のうちに幕を閉じました。

## サルはモー来ないで! (西山地区里山環境再生事業)

西山山麓の大枝地域は、昼夜の寒暖差を生かした良質な柿の栽培が盛んな地域です。この柿の里では、数年前からサルの被害が出始めたため、爆音機の導入やロケット花火による追払いを実施し、一定の効果をあげていました。しかし、サルの個体数の増加に伴い、被害が急増し、昨年は殆ど収穫ができないほど被害が大きくなりました。

そこで、今年新たなサル対策として、柿園の山際にサル用電気柵を設置するとともに、柵と山林との間にレンタルしてきた牛を放牧し、緩衝地帯を設けることで、サルが近づきにくい状況を作りました。その結果、今年は被害をほとんど受けずに無事収穫できました。

サルに強い里づくりのためには、野生動物の餌となる周辺の放置された果樹を適正に管理するとともに、里山に常に人がいる状況を作ることが大切です。

そのため大枝地域では、柿園に生産者だけでなく、様々な人が訪れる

よう、電気柵の設置方法を工夫し、牛を見学しやすくしました。

10月6日には、京都市立芸術大学の学生がデッサンのため現場を訪れました。最初は間近で見る牛の大きさに驚いていましたが、熱心にデッサンに取りかかると牛もその気になったのか、おとなしくモデルになっていました。

今後も大枝地域では、サルに強い西山の里づくりに力を注いでいきます。

